

自治大研修生のある一日のスケジュール

自治大での研修生活について具体的にイメージする一助としていただくため、第一部課程の研修生からの聞き取りにより、一日の流れをまとめました。

7:00 起床

食堂で朝食をとり、一日の準備。
自治大学校では、栄養バランスに配慮した食事が3食提供されています。
講義開始前に、図書室で新聞も読みました。

13:00～14:10 第三時限

14:25～15:35 第四時限

座学の講義。
この日は、都道府県と市町村の関係、地方自治のあり方、職場組織、人事評価等について学びました。この講義の先生は、これらの分野において多数の著書がある第一人者であり、実務の中でも参照したことのある書籍の著者だったので、直接講義を受ける経験が得られたことは貴重な機会でした。
また、知識を深められたことに加え、先生の豊富な知見・経験に基づくエピソードは非常に興味深く、自治体職員としての心構えを改めて学ぶことができました。

19:00～20:00 夕食

食堂で夕食。
この日は、国際研修で自治大学校に滞在している外国公務員との交流を兼ねた夕食会に参加しました。
夕食を共にしつつ、海外における公務員の実情、生の声を聞くとともに、様々な話題について意見交換をすることができた貴重な機会となりました。

21:00～23:00 自習

政策立案演習の班員との話し合い。
指導教官からの指摘を踏まえ、中間発表会に向け、発表資料のブラッシュアップを行いました。
その後、個人で仕上げる課題や演習報告書作成。
課題の中には、未経験の分野に関する課題もありますが、その場合はその分野において職務経験が豊富な研修仲間から話を聞くことが非常に参考になります。

09:25～10:35 第一時限

10:50～12:00 第二時限

ディベート型演習。
最初に先生から説明を受けるとともに、ディベートの実施イメージを把握できるよう、実演に関する映像を視聴した上で、演習に入りました。
この日は、「地方公共団体のレジ袋有料化推進」というテーマについて、グループごとに賛成派と反対派に分かれての討議でした。
相手の意見を否定することなく、かつ、自分の意見を論理的に組み立て、感情に走らず説得力をもって伝えるよう努めましたが、頭では理解しているつもりでも、実践するのは非常に難しいと感じました。

12:00～13:00 昼食休憩

食堂で昼食。
研修仲間との雑談も楽しつつ、午後の講義に備えます。

15:50～17:00 第五時限

17:15～18:25 第六時限

政策立案演習。
この演習は、研修の中核を占める重要なものであり、少人数で構成する班ごとに、実際に首長に提言することを想定して政策を立案し、最終的には報告書としてまとめ、発表するという実践的な演習です。
この日は、政策立案の中間発表に向け、発表資料の構成・内容について班内で議論しました。
この演習においては、各班で定めた政策立案テーマを踏まえ、当該分野における知見・経験が豊富な指導教官が決定されており、この日も当該教官による知見・経験に基づき、的確な指摘・アドバイスをいただきました。

24:00 就寝

マネジメントコース研修生のつぶやき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース(※)の研修生が持ち回りで担当し、それぞれの所感等を述べたものです。

※ 自治大学校における一年間の研修であり、研修期間中の概ね半分は自治大学校における実務に参画し、もう半分は通常の研修(第1部課程等)を履修することにより、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

いつも「自治大からの情報発信」をご覧ください、誠にありがとうございます。
私は、本件の企画・編集を担当しております本年度のマネジメントコースの研修生です。

前回から設けた新コンテンツ「自治大行政の視点」において、今回は、法政大学キャリアデザイン学部教授の武石恵美子先生に、「女性のキャリア支援をどう進めるか」という論題でご寄稿いただきました。女性の管理職比率向上をはじめ、女性活躍推進については、すでに多くの地方公共団体において重視されていますが、今後、組織及び管理職に一層求められることは、一方的な「配慮」という観点から、女性のキャリア意識をどう醸成していくかという観点到にシフトしていくことなのだと実感したところです。

他のコンテンツも含め、ご寄稿いただいた先生方、卒業生の方をはじめ、ご協力いただいた皆様のおかげをもちまして、今回の発信を行うことができました。この場をお借りし、厚くお礼申し上げます。

初めての東京での生活や慣れない業務に四苦八苦するうち、早いもので、あとわずかで実務期間を一旦終えるところまで来てしまいました。10月から一般の研修課程に参加するにあたり、今更ながら戦々恐々としているところですが、ここまで来た以上、旅の恥はかき捨てという精神で、いい意味で失敗を恐れず挑んでいくしかないとも考えております。

読者の皆様におかれましては、今後とも、この「自治大からの情報発信」を何卒よろしくお願い申し上げます。

(M.I)

